

SHIRAKOBATO

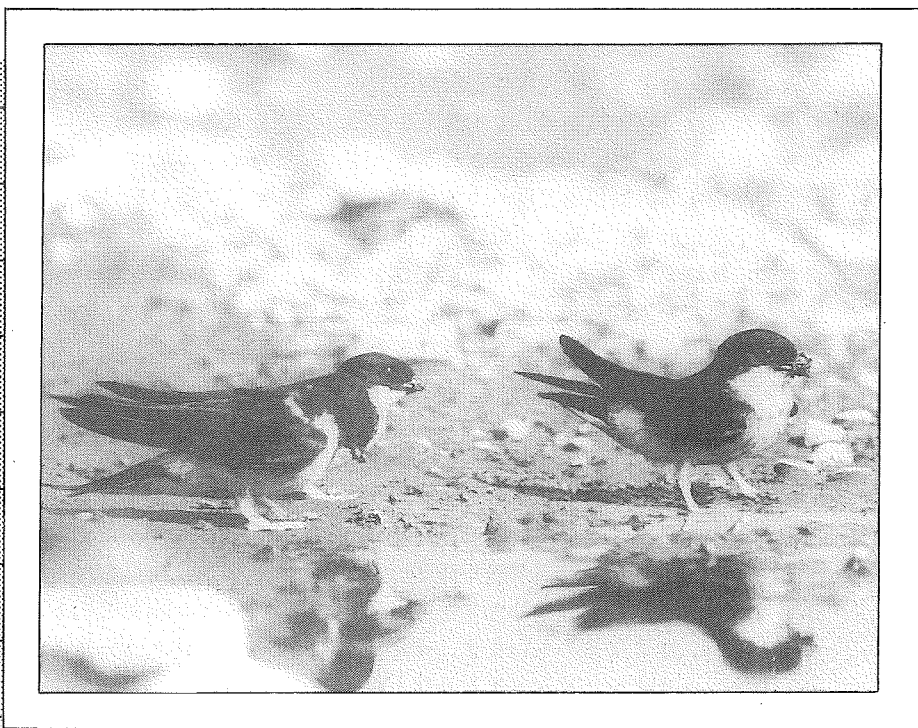
# しらこぼと



# 1990.5

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 72

日本野鳥の会 埼玉県支部

# 好き 谷津干潟 好き

埼玉県にはなぜか海がない。だから干潟もない。そんなかわいそうな埼玉県のみなさんにも是非干潟の鳥を見て欲しいと思うので、千葉県習志野市の谷津干潟を紹介します。

## プロフィール

武蔵野線が京葉線とつながって南船橋まで直通になりました。その南船橋駅のすぐそばにシギ、チドリ、宝庫、谷津干潟があります。かつて東京湾にはたくさんの干潟があったようですが、遠浅なのでどんどん埋め立てられ今ではほとんど残っていません。鳥たちは行くところがないので残った干潟に集まってきます。谷津干潟は自然のままの姿で残された数少ない干潟のひとつです。

潮が引くと一面の泥と砂に見える干潟にはゴカイやカニなど多くの底生生物が住んでいて、それらは食物連鎖を通して生態系を形づくっています。それは一度破壊されると人間の手で回復するのは容易ではありません。人工的な干潟を作っても集まる鳥の密度は自然のものに比べて遠く及ばないようです。シギチドリを見たい人はもちろん、大嫌いという人も是非一度、谷津干潟の自然に触れてみて下さい。

## 春の渡り

越冬していたハマシギやダイゼンのおなかに黒い斑点が見えるようになると春の渡りの季節です。繁殖期になぜ羽が黒くなるのかわかりませんが、鳥にとってはきつと色っばいなのでしょう。赤くなるのもいます。オオソリハシギ、トウネン、メダイチドリなどがそろって干潟がパッと華やかになります。オオソリハシギはあの長い嘴を根元まで泥に差し込んでゴカイをとりますが、中には顔まで泥ンコになっているのもいます。嘴が下に曲がったチュウシャクシギもたくさん見られます。秋には数がうんと少ないので、春と秋と

では渡りのルートが違うのだろうといわれています。4月の中旬から始まる春の渡りは、連休の頃にピークを迎えます。シギ、チドリで混雑する春の谷津干潟を日本で最もすばらしい自然のひとつに挙げる人もいるくらいです。

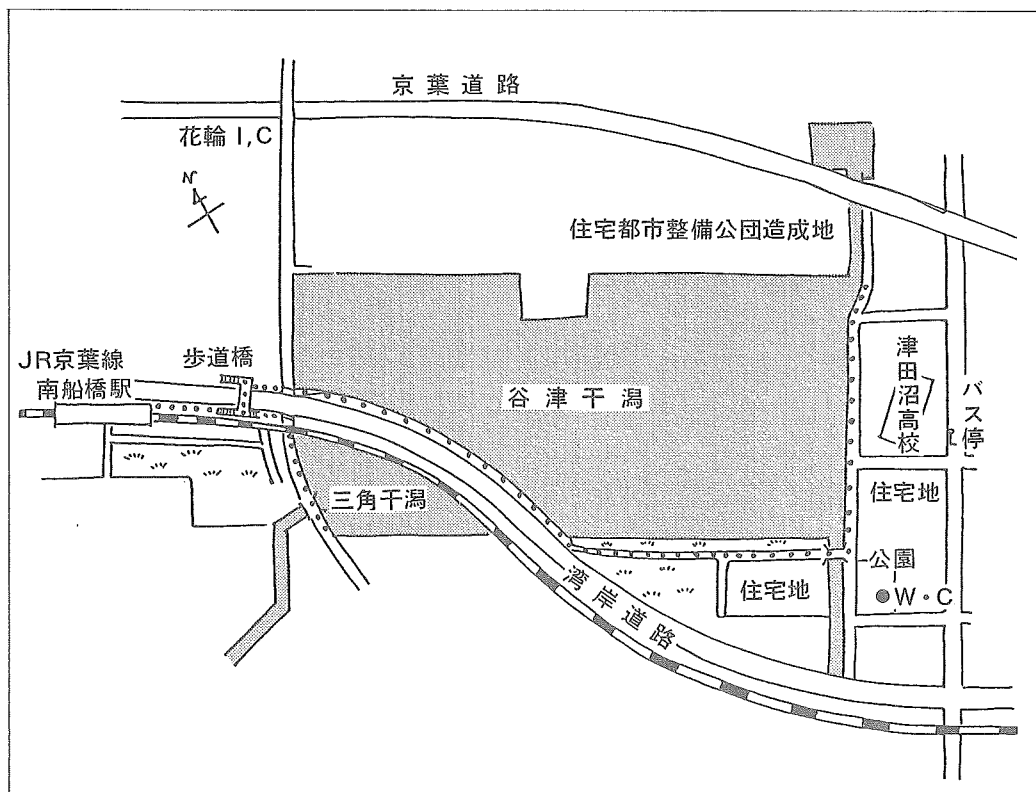
## 秋の渡り

まだカンカン照りの8月、カニだらけの干潟ではもう秋の渡りが始まっています。最初に帰ってくるのはキアシシギです。6月に見なくなったと思うと8月の初めにはもう帰ってきます。相手にふられたんじゃないだろうかなどとつい心配になります。比較的特徴のないシギですが、一度カルガモに混じって泳いでいるのを見ました。そして水の中に頭を突っこんでゴカイをつかまえたのですが、その仕草がカモにそっくりでした。

秋に多いのはアオアシシギとオバシギ。すらりとスマートなアオアシシギとノコノコ歩き回るオバシギを見ていると、どうしてもオバシギに親しみを覚えてしまいます。それらの群れにコアオアシシギやコオバシギが混じることがありますので見逃さないで下さい。

他にもサルハマシギ、オオメダイチドリなどの珍鳥が見られるのも秋の楽しみです。ハラシギが出たこともありますし、ハシブトアジサシがピラーリと飛び回っていたこともあります。

秋とはいっても日陰がなく炎天下でのウオッチングになります。帽子と飲み物は必ず用意してお出かけください。長時間がんばりすぎて脱水症状を起こしたあげく、顔に眼鏡のあとがくっきりというみじめな思いをしたことがあります。



## 越冬する鳥たち

夏は暑いかわりに冬はちょっと涼しすぎるようです。防寒にも十分注意して下さい。

ハマシギ、シロチドリ、ダイゼン、それにユリカモメが冬の主演でしょう。ハマシギの群れが飛びながら一斉に反転すると白いおなかキラッと光って銀色の砂をまいたように見えます。有明海の風物詩と言われるようですが、谷津干潟でも存分に楽しめます。

ダイゼン、ダイシャクシギ、ズグロカモメが越冬するのは関東地方では珍しいようです。ユリカモメの群れに数羽のズグロカモメが混じっていて、カニをつかまえるのに干潟に急降下するのが見られます。この3年ほどハマシギの中にヒメハマシギとニトウネンが観察されていますので探してみてください。しかし、小さなハマシギの群れの中からもっと小さいのを見つけるのはちょっと覚悟が必要です。

冬の圧巻は何といってもハヤブサでしょう。これがあらわれると他の鳥たちは群れをなして逃げまどい、まるで干潟が煮えたとっている

ようです。ハヤブサがハマシギの群れに突っこんで空振りに終わった時「おーい、がんばれ」と言ったら、そばにいた人に「どっちの応援をしているんですか!!」と怒られたことがあります。見ているだけで手に汗を握るほどですから無理ありません。運がよければそんな光景にも出会えるでしょう。

谷津干潟は潮の干満があるので、時刻を選ぶのがポイントです。引き始め、満ち始めの水ぎわに鳥が集まって見易くなります。但し東京湾の一番奥なので予報より1時間半ほど遅れます。

## おわりに

谷津干潟もやっと国設鳥獣保護区になりました。もとは埋め立てられて住宅地になる筈でしたが、干潟を掃除したり、保存を呼びかけるピラを駅頭で配ったり、また市議会にも働きかけて、ようやく残ることになったのです。谷津干潟に行った時、この干潟を守るためにがんばった人たちがいたことをちょっとだけ思い出して下さい。

(杉本秀樹)

# オオセグロカモメの観察

従来、埼玉県内において観察されていなかったカモメ類（埼玉県支部研究部 1990）であるオオセグロカモメを観察したのでこれを報告する。

## 記

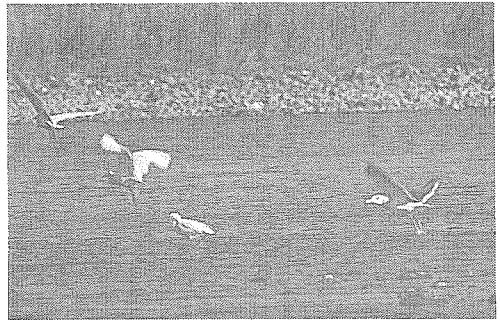
1. 時刻：1990年1月4日午前10時30分頃
2. 場所：利根川阪東大橋下流1km（本庄市）
3. 天気：晴れ、北東の風5～6m、2～3℃
4. 状況：利根川本流の中、コサギ6羽の近くに成鳥1羽
5. 識別点：くちばしに赤点、首に茶色の縞



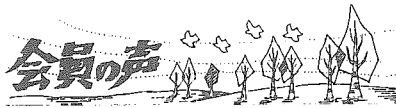
- 模様、目は黄、脚はピンク、翼下面の初列風切から大雨覆は三角形の濃いグレー
6. 写真：図を参照

文献 埼玉県支部研究部 1990 埼玉県産鳥類リスト 1978年4月～1989年11月  
しらこぼと No.68 日本野鳥の会埼玉県支部  
浦和

（町田好一郎、林 滋）



（撮影・町田好一郎）



## ある病気のお話

香川裕之（足立区）

貴方、珍鳥続出眼病にかかってはいませんか？胸に手をあててよく考えてみてください。『見る鳥すべてが日本初記録の鳥に見え』たり、『すべてのキジバトがチョウゲンボウに見え』たりしたこと、ありませんか？

見る鳥見る鳥、珍鳥にみえてしまうという珍鳥続出眼病は、特に、見たかった鳥が見れなかった、といった葛藤の蓄積した時に起こりやすいといわれております。重病の方だと、タンギもオオハシギに見えてしまうという始末で…（それは私だ！）。

治療方法ですが？残念ながらいまだ発見されておられません。なぜって？簡単ですよ。この文章を書いている本人が珍鳥続出眼病の重病患者なのですから…。

## 北秋津から、近況報告

水本玲子（所沢市）

3月10日（土）に、今シーズン3度目ですが、アオゲラ（オス）を観察しました。

午前10時ころ、家のうしろの雑木林で10分くらい木のコブをつついたり、ほじくったりしていました。家から10mくらいの距離でしたので、屋根まで出て、肉眼でよく観察できました。

翌11日（日）の午前7時ころ、昨日と同じアオゲラでしょうか、同じ木で5分くらいドラミングをしていました。家から5mくらいの木に移ってきて、その後、緑色の背を見せながら飛んでいきました。日曜日の朝でしたので、主人と子供も初めてアオゲラを観察できました。

この日は、芦ヶ久保（秩父）の青少年活動センターに行きましたが、池の近くに、動物に食べられたと思われる鳥の羽が残っていま

した。カケスでしょうか。ブルーの羽がとても美しいです。

我が家のミニサンクチュアリでも、3月はじめ、野良猫にシジュウカラが食べられたことがありました。その後エサ台をカゴに替えて、高いところにつり下げています。

3月11日(日)には、今年はずじめてウグイスの声を聞きました。

探鳥雑記

臥游庵主(吹上町)

カッコウの声はいつでも私達に、さわやかな初夏の高原を思い起こさせてくれるものです。ところで、「ホトトギス、カッコウなどをトケン類と云いますが、どうしてトケン類と云うのかご存知ですか?・・・」

これは以前武州日野の探鳥会で某リーダーが出した問題です。答は簡単で、漢字でホトトギスの事をトケンと書くのだそうです。さてそれではどんな字を書くのだろうか・・・。大修館書店から漢字百話「鳥・とり事典」という本が出ている。買い求め、頁を開いて驚ろいた。今迄一度も見た事のない字の羅列ではないか。尤もこの本は、熟語五十万といわれる大漢和辞典から鳥のつく字を集めたというのだから、当然と云えば当然である。

読み進んでゆくうちに七画の項にありまし

からで お見せできないのが残念ですが  
頭のルリ色が とてもキレイな鳥でした。

3/2, Melbourne Royal Botanic Gardens.

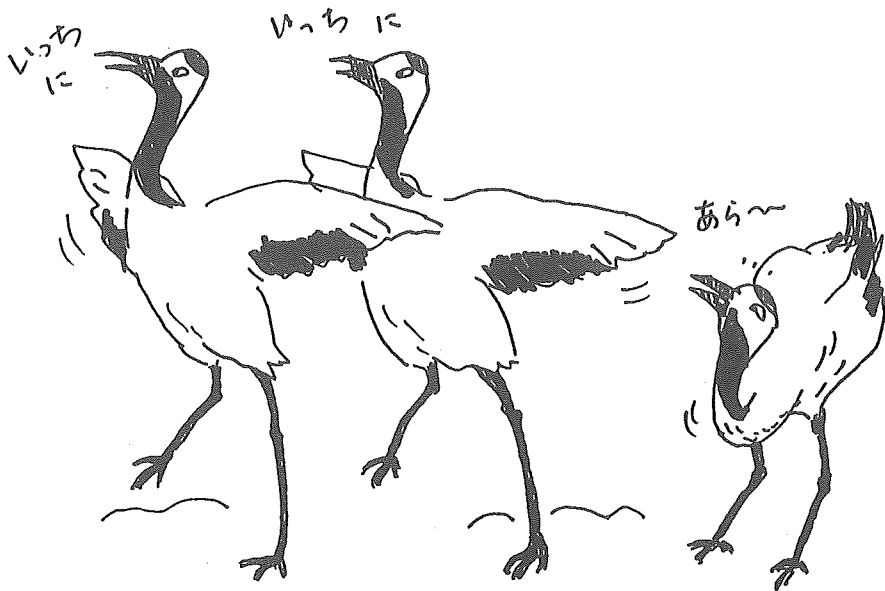
< Superb Fairy-wren >

にて。



たよ。「<sup>ケン</sup>鵲」この一字でもホトトギスのことだそうですが、それに中国の大詩人杜甫の「杜」をつけて「<sup>トケン</sup>杜鵲」と書き表わすのだそうです。納得。

字も確かに立派な字ですが、「ホトトギス類」と云うよりは「トケン類」と云う方がゴロが良いし云い易いですよ。



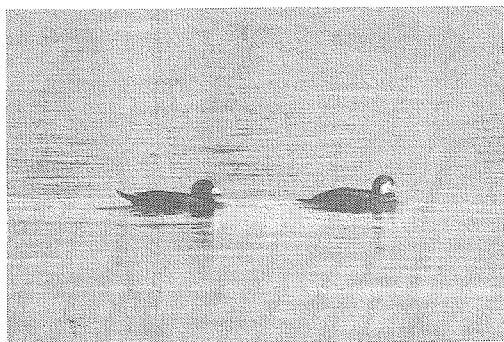
# 野鳥情報

カワウ ◇3月15日、浦和市の白幡沼で1羽  
(小谷野勝栄)。

アメリカヒドリ ◇3月5日、妻沼町の刀水  
橋上流で♂♀各1羽(市川計彦)。

オナガガモ ◇2月18日午後3時半頃、本庄  
市の阪東大橋下流で群れから離れて♂1羽。  
何を思ったのかカワアイサの群れの最後尾  
につく。隊列を組んで本流を下りながら、  
カワアイサと同じように上手にダイビング  
をくり返していた。彼は早春のポカポカ陽  
気の中で夢でも見ていたのだろうか(町田  
好一郎)。

クロガモ ◇3月24日午前10時頃、妻沼町間  
々田の小山川と利根川の合流地点から約100  
m下流で♂♀各1羽。ピーポー、ピーポー  
と鳴き、上流にむかって飛び、また下流に  
流されるということを一日中繰り返してい  
た。飛び立つ時はハクチョウの首ふりのよ  
うに、2羽でしきりに上下に首をふってか  
ら飛び上がっていった。上空にカラスなど  
が近づくと、1分くらい潜ったまま出てこ  
なかった。ほかのカモが近づいてもまった  
く興味を示さなかったが、ほかのカモのほ  
うは大分気にしているようだった。午後6  
時頃まで観察したが翌日は見つけれなかつ  
た(井上 茂)。…編集部註：県内では  
1970年4月に利根大堰付近で目撃例もある  
が確認記録としては、1982年4月に蓮  
田市黒浜沼で写真撮影されたのが唯一のも  
のだった。したがって、これは県内で2回  
目の確認記録となる。



(撮影・井上 茂)

オオタカ ◇3月6日、吉見町の旧荒川付近  
で成鳥1羽(市川計彦)。

ハヤブサ ◇3月11日、吉見町の旧荒川付近  
で若鳥1羽。キジバトの群れを追う(市川  
計彦)。

チョウゲンボウ ◇3月4日、鴻巣市箕田の  
熊谷バイパス沿いの道路用地の草地に1羽  
舞い降りる。車の運転中の為、エサをとつ  
たかどうかは不明(諏訪隆久)。

クイナ ◇3月6日、大宮市市営霊園裏で1  
羽。枯れたアシの間から顔を出していた  
(浅沼源太郎)。◇3月22日、大宮市七里  
で1羽(浅沼源太郎、菱岡美穂、村上由香)。

タゲリ ◇桶川市の江川田圃での観察記録。  
2月18日、20羽以上の群れ。3月10日、40  
羽以上の群れが大空に舞い上る。そろそろ  
北帰行の準備の為、集結しているのだろう  
か。3月21日、7羽と3羽が2カ所にわか  
れていた。3月24日朝、1羽も見当らない  
(立岩恒久)。◇4月1日、浦和市秋ヶ瀬  
B区で3羽(秋ヶ瀬探鳥会)。

クサシギ ◇3月14日、蕨市錦町の水田で1  
羽(浅沼源太郎)。

ヤマシギ ◇3月14日、戸田市道満の釣堀付  
近で1羽(高橋達也)。◇3月22日、大宮  
市七里地区で1羽(浅沼源太郎、菱岡美穂、  
村上由香)。

セグロカモメ ◇2月27日、狭山環状道路付  
近の入間川で成鳥1羽(市川計彦)。◇3  
月11日、久喜市の昭和池で成鳥1羽(市川  
計彦)。

コミミズク ◇3月6日、大宮市の東宮下小  
学校裏のアシ原で2羽(浅沼源太郎)。

アマツバメ ◇3月22日、浦和市三室で1羽  
(浅沼源太郎)。

ヤマセミ ◇2月28日、日高町の巾着田、ド  
レミファ橋上流で♂♀各1羽(西村光雄)。  
◇2月23日、越生町の越辺川で1羽。キョ  
ロキョロと鳴きながら上流から飛んできて  
枝に着地(佐藤充江)。

カワセミ ◇3月4日、日高町の巾着田、鹿  
台橋下流で♂♀各1羽。2羽いっしょに見  
たのは今年初めて(西村光雄)。◇3月18  
日、桶川市川田谷の城山公園駐車場の柵に

1羽。車から出られず、じっとうれしいがまん(内藤義雄)。◇3月31日午前10時30分、本庄市の阪東大橋下のネコヤナギの枝で♀各1羽。求愛求餌を観察する(町田好一郎)。

アオゲラ ◇3月10日~11日、所沢市北秋津で♂1羽(水本玲子)。◇3月19日、新座市の平林寺で♂1羽(小谷野勝栄)。

ツバメ(初認) ◇3月14日、戸田市道満で1羽。昨年より23日早い(高橋達也)。

◇3月16日、本庄市の阪東大橋下流で2羽(町田好一郎)。◇3月17日、鴻巣市の荒川河川敷で1羽(内藤義雄)。◇3月18日、浦和市三室で1羽(三室探鳥会)。◇3月22日、大宮市中川で2羽(浅沼源太郎)。

◇3月24日、深谷市常盤町で1羽(荻野登喜治)。◇3月24日、桶川市の江川田圃で2羽(立岩恒久)。◇3月25日、狭山市の入間川、広瀬橋付近で6羽(三田長久)。

◇3月26日、幸手市の権現堂近くの田圃で1羽(秋間利夫)。

イワツバメ(初認) ◇3月18日、浦和市三室で多数(三室探鳥会)。◇3月22日、戸田市の戸田公園駅ガード下で3羽。昨年より8日早い(高橋達也)。◇3月25日、狭山市の入間川、本富士見橋付近で1羽(三田長久)。

ルリビタキ ◇3月6日、浦和市常盤1丁目の自宅の庭で♀1羽。12月29日からほとんど毎日来ています。シッポがだんだんとあざやかな青になってきて今日は光っていた。脇の黄色もくっきりしてきた(江原愛・恵子)。◇3月16日、川口市石神で1羽(浅沼源太郎)。◇3月17日、児玉郡神泉村の城峯山山頂近くの杉木立で♂1羽。ブルーの羽毛が春風にゆれていた(町田好一郎)。

◇3月19日、新座市の平林寺で♂1羽(小谷野勝栄)。

トラツグミ ◇3月5日、川口市石神で1羽(浅沼源太郎)。◇3月17日午後4時20分、狭山市沢久保の自宅付近で2羽(三田長久)。

◇3月17日、北本市高尾のふるさとの森でしばらく鳴いていた(内藤義雄)。

アカハラ ◇3月18日、北本市の石戸宿で1羽。そばに立っている私に気づかず、シロハラと一緒に仲よくがさごそと枯葉をけちらしていた(内藤義雄)。

シロハラ ◇2月27日、川越市今福の自宅の屋根の上に1羽(市川計彦)。

ウグイス(初鳴き) ◇2月17日、桶川市若宮の自宅付近で。まだあまり上手ではない(立岩恒久)。◇3月7日、川越市今福の自宅庭で(市川計彦)。◇3月17日、児玉郡神川村の金鑽神社の境内で。ちょっとぎこちない(町田好一郎)。

ハギマシコ ◇3月9日午前6時20分、秩父市羊山公園の下の民家の柵の上で5羽(山岸昭治)。◇3月21日、羊山公園の牧水の滝付近で5羽(下田敏夫)。

ウソ ◇2月25日、越生町の世界無名戦士の墓で群れ。桜の花芽をついばんでいたが、その中にアカウソ♂1羽まじっていた(佐藤充江)。

シメ ◇3月6日、浦和市常盤1丁目の自宅の庭で5羽(江原愛・恵子)。

カラス(ねぐら) ◇3月6日、大宮市御蔵で推定300~400羽のねぐらを見つけた。ほとんどのカラスは当地より北の方向からねぐら入りをしていた。ハンフトガラスが大部分、少数であるがハシボンガラスもまじっていると見られる(浅沼源太郎)。

## 表紙の写真

## 1989 バードフォトコンテスト入選作

### イワツバメ (ツバメ科)

ツバメより少し小さめで、飛んだときに腰の白い帯が目立ちます。橋の下や、鉄道の高架下などに集団で巣を作ります。

巣を作る場所だけではなく、巣材のドロを取るのもみんな一緒です。

飛びまわっているときと違い、巣材集めに夢中になっているときは、間近でじっくり観察することができます。

1989年5月30日/八王子市浅川にて

(登坂久雄・八王子市)

# 行事あんない



## 本庄市・阪東大橋探鳥会

期日：5月6日(日)  
集合：午前9時 本庄駅北口  
(その後現地までバス利用)  
交通：高崎線大宮7:42発→本庄8:49着  
解散：午後1時ごろ  
担当：町田好一郎、林滋、関口善孝  
見どころ：坂東太郎、春の情景。河原には、  
渡りの途中のシギの姿が見え隠れ。ひ  
よっとしたらツバメチドリとの遭遇も。

## 千葉県・谷津干潟探鳥会

期日：5月6日(日)  
集合：午前9時30分 京葉線南船橋駅前  
交通：武蔵野線北朝霞8:28発→武蔵浦和8  
:35→南浦和8:38→南船橋9:26着  
解散：午後1時ごろ  
担当：杉本秀樹、小淵健二  
見どころ：春の干潟は大にぎわい。干潟はど  
こもシギ・シギ・シギ。君達いったい  
どこから来たの？

## 長野県・軽井沢探鳥会

期日：5月11日(金)夜~12日(土)  
集合：12日午前3時 軽井沢駅前  
交通：信越本線急行妙高上野11日23:58発→  
大宮0:26→熊谷1:05→軽井沢2:  
58着。各自、最寄り駅より乗車。  
費用：タクシー代若干をご負担願います。  
注意：弁当は朝・昼の二食用意してください。

野鳥や自然の好きな方、どなたでも歓迎。  
探鳥会に参加される場合、持ち物は、筆記  
用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼  
鏡など。参加費は、一般=100円、会員及び  
中学生以下=50円。受付は探鳥会当日です。  
特別な場合を除いて予約申込みの必要はあり  
ません。小雨決行です。

夢中になりすぎて、鳥を驚かしたり、植物  
を荒らしたりしないように。タバコの吸い殻  
やゴミを散らかすなんて事はもってのほか。  
いつもフィールドマナーをお忘れなく。

身支度ができたら、さあ出発!

解散：12日、現地にて午後2時ごろ

担当：中島康夫

見どころ：夜明けの森いっぱい、野鳥のコー  
ラス。ヨタカの声が響く真っ暗な森の  
中。やがて鳥たちのさえずりが始まる  
と、早くも探鳥会はクライマックス。

## 熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：5月13日(日)  
集合：午前9時20分 秩父鉄道大麻生駅前  
交通：秩父鉄道熊谷9:00発→大麻生9:10  
着 / 秩父鉄道寄居8:52発→大麻生  
9:10着  
解散：午後1時ごろ  
担当：諏訪隆久、岡安征也、逸見嶮、高橋夕  
香子、田口浩司、宮坂亨  
見どころ：ヨシキリの声あふれ、大麻生はも  
う夏のはじまり。コアジサシやツバメ  
が華麗な飛翔を見せてくれます。

## 蓮田市・黒浜沼探鳥会

期日：5月13日(日)  
集合：午前8時45分 蓮田駅東口バス停前  
交通：東北線線浦和8:21発快速ラビット号  
→大宮8:27→蓮田8:35着  
解散：午後1時ごろ  
担当：中島康夫、石川敏男、小林恒雄、浅田  
徳次、五十嵐浩  
見どころ：皐月(さつき)の陽光に映えるア  
マサギ、ムナグロ。田圃を闊歩する彼  
らの姿もこの季節ならではですね。



### 浦和市・秋ヶ瀬探鳥会

期日：5月13日（日）  
集合：午前9時 浦和駅西口バスロータリー  
（その後現地までバス利用）  
解散：午後1時ごろ  
担当：福井恒人、海老原美夫、伊藤芳晴、登坂久雄、角田真喜子  
見どころ：見渡せばムナグロの群。もっとよく見渡せばいろいろなシギの仲間。

### 川越市・西川越探鳥会

期日：5月13日（日）  
集合：午前9時 川越線西川越駅前  
交通：川越線大宮8：34 →川越で8：56発  
高麗川行き乗り継ぎ、西川越8：59着  
解散：午後1時ごろ  
担当：乗田実、石井幸男、三田長久、長谷部謙二、佐久間博文、吉田喜代実  
見どころ：今度で二度目の探鳥地。今回は夏の鳥たちが主役です。

### 浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：5月20日（日）  
集合：午前8時15分 北浦和駅東口 または  
午前9時 浦和市立郷土博物館前  
（北浦和駅の場合、その後バス利用）  
解散：午後1時ごろ  
後援：浦和市立郷土博物館  
担当：楠見邦博、伊藤芳晴、笠原伸子、手塚正義、渡辺周司、福井恒人  
見どころ：吹く風も爽やかに、野辺の探鳥。  
草いきれの中を歩けば、思いがけない出会いがあるかも。

### 『しらこぼと』袋づめの会

とき：5月26日（土） 午後1時～3時ごろ  
会場：支部事務局（浦和駅西口を出て左側、三菱信託銀行と日建ハウスの間に入って進み、信号ひとつ渡ってY字路の右、茶色5階建マンション1階＝徒歩5分）  
案内：ちょっと気が向いたら浦和駅で降りてください。袋づめの会が、すばらしい鳥仲間をご紹介します。

### 野鳥写真クラブ定例会

とき：5月26日（土） 午後3時ごろ～5時  
会場：『しらこぼと』袋づめの会と同じ  
案内：連休中にものにした傑作、一挙発表？

### 上尾市・丸山公園探鳥会

期日：5月27日（日）  
集合：午前8時30分 丸山公園北駐車場  
交通：上尾駅西口1番バス乗り場から8：09  
発西上尾車庫行きバス乗車、終点下車  
解散：午後1時ごろ  
担当：乗田実、赤瀬征雄、立岩恒久、河辺達朗  
見どころ：初夏のひととき、鳥とお散歩。緑あふれる園内で、野鳥とのふれあいを  
お楽しみください。

### 長野県・戸隠飯綱高原探鳥会（要予約）

期日：6月2日（土）早朝～3日（日）  
集合：2日午前5時20分 長野駅改札口前  
交通：大宮駅を2日午前0時26分発の急行妙高（4時43分長野着）が便利です。  
費用：10,000円の予定（一泊三食、現地バス代、保険料など）  
定員：40名（先着順、県支部会員優先）  
申込み：往復葉書に住所、氏名、電話番号、年齢、性別を書いて北川慎一  
まで。  
担当：北川慎一  
草間和子、黒田佳子、榎本秀和  
見どころ：夏のスターが勢揃い。2年つづけてアカショウビンも出ています。

### 栃木県・奥日光探鳥会（要予約）

期日：6月9日（土）～10日（日）  
費用：宿泊費・往復交通費など約12,000円  
定員：20名程度（先着順、県支部会員優先）  
申込み：葉書か電話で担当まで。  
担当：中島康夫  
見どころ：高層湿原に初夏のコーラス。朗らかなキビタキのさえずりの中、戦場ヶ原を歩きましょう。

# 行事報告

2月17日(土) 群馬県 裏妙義

人 30人 天気 晴 鳥 コサギ オシドリ  
 マガモ カルガモ オナガガモ トビ オオ  
 タカ ノスリ イヌワシ アオゲラ コゲラ  
 キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ  
 ヒヨドリ モズ カワガラス ジョウビタキ  
 ツグミ エナガ コガラ シジュウカラ ホ  
 オジロ カシラダカ ミヤマホオジロ アオ  
 ジ アトリ カワラヒワ ウソ シメ ニュ  
 ウナイスズメ スズメ ムクドリ ハシブト  
 ガラス (34種) 寒さもやわらぎ、しかも好天  
 に恵まれた一日。横川駅から妙義湖へ続くハイ  
 キングコースでは、アオゲラ、ニューナイ  
 スズメ、ウソ、オシドリなどが登場した。何  
 といっても圧巻は、国民宿舎でのランチタイ  
 ム。参加者全員が、上空のイヌワシに見おろ  
 されながらお弁当を食べたのだ。

2月18日(日) 長瀬町 長瀬

人 38人 天気 晴 鳥 カイツブリ コサ  
 ギ オシドリ マガモ カルガモ コガモ  
 オナガガモ オオタカ キジ イカルチドリ  
 イソシギ キジバト ヤマセミ カワセミ  
 コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ  
 セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビ  
 タキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メ  
 ジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワ  
 ラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ  
 ハシボソガラス ハシブトガラス (36種) 初  
 めての探鳥地。リーダーの準備のかがあ  
 って良い天気にも恵まれ、ヤマセミもしっか  
 り見られた。場所柄を考へて人の少ないコ  
 ースをとったので、足元は石ころだらけだ  
 ったが、気分は最高だった。

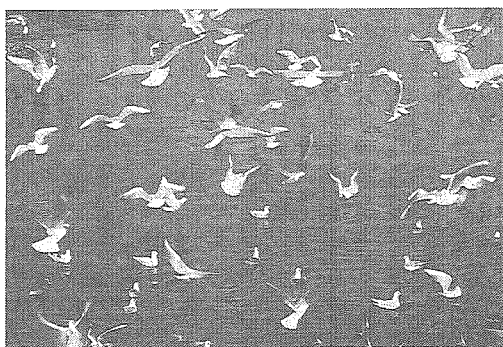
2月24日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

がんばってくれた人 岩波勇一、海老原教子、

海老原美夫、河辺達朗、小林恒夫、小林芳江、  
 諏訪隆久、高橋夕香子、中村 治、林 滋、  
 藤野富代、村上由香、吉田二三子、渡辺孝章  
 (14人)

2月24日(土) 写真クラブ定例会

集まった人 22人 作品発表した人 8人



ユリカモメ (渡辺孝章・浦和市)

2月25日(日) 北本市 石戸宿

人 29人 天気 曇後小雨 鳥 コサギ コ  
 ジュケイ キジバト アカゲラ コゲラ ヒ  
 バリ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジ  
 ョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカ  
 ラ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラ  
 ヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス オ  
 ナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (24  
 種) シメをじっくり観察。樹間を動くアカゲ  
 ラ。頭上より降りしきるシジュウカラのさ  
 えざり。あちらこちらでカケスのしわが  
 れた挨拶も受ける。大昔の、ちょっと昔  
 の、現在のそして、これからの石戸宿を  
 語り合いながら遊歩道を散策。白梅の花  
 もチラホラ、早春の風情。空模様もな  
 ぜか感涙にむせんで。

2月25日(日) 日高町 巾着田

人 23人 天気 小雨 鳥 ゴイサギ コサ

ギ アオサギ キジ キジバト ヤマセミ  
コゲラ ヒバリ キセキレイ セグロセキレ  
イ タヒバリ ヒヨドリ モズ ツグミ エ  
ナガ シジュウカラ メジロ ホオジロ カ  
シラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズ  
メ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガ  
ラス (26種) リーダー多忙のため、直前下見  
ができなかったのが失敗。途中の橋が工事中  
で、普段車の少ない道に車が多く、ゆっくり  
鳥を見られなかった部分も。ごめんなさい。  
でも、キジが至近距離でじっくり見られたし、  
昼食を食べているところにヤマセミ2羽が飛  
んできて、魚をとり、たたきつけ、飲み込む  
までをゆっくり見ることができたのだから、  
どうか許してください。

### 2月25日(日) 本庄市 阪東大橋

人 14人 天気 曇後雨 鳥 カイツブリ  
ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カル  
ガモ コガモ ヒドリガモ オナガガモ ハ  
シビロガモ カワアイサ トビ チョウゲン  
ボウ イカルチドリ クサシギ イソシギ  
セグロカモメ キジバト カワセミ ヒバリ  
キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ  
ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ セ  
ッカ メジロ ホオジロ カシラダカ アオ  
ジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズ  
メ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガ  
ラス (39種) 前々日からの雨で利根川が増水  
し、カモ達が分散してしまい、目標の10種に  
は届かなかった。それでも、ここでは珍しい  
セグロカモメは全員が見られたし、なかなか  
見られなかったカワセミも鳥合わせの寸前に  
一声鳴いて間に合わせてくれた。解散後、小  
雨の中をカワウが団体で見送ってくれていた。

### 3月10日(土) 千葉県習志野市 谷津干潟

人 18人 天気 晴 鳥 カワウ ダイサギ  
コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガ  
モ オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ  
ハシビロガモ ホシハジロ キンクロハジロ  
トビ シロチドリ ダイゼン ハマシギ イ  
ソシギ ニシトウネン ダイシャクシギ ホ  
ウロクシギ ズグロカモメ ユリカモメ セ

グロカモメ キジバト ヒバリ ハクセキレ  
イ タヒバリ ヒヨドリ モズ ツグミ セ  
ッカ メジロ オオジュリン スズメ ムク  
ドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (38  
種) 潮の具合も良くて、ハマシギの群れの中  
にニシトウネンを見つけたり、夏羽のズグロ  
カモメの急降下をゆっくりと観察することが  
できた。

### 3月11日(日) 熊谷市 大麻生

人 53人 天気 晴 鳥 カイツブリ カワ  
ウ ダイサギ コサギ アオサギ コハクチ  
ョウ マガモ カルガモ コガモ オナガガ  
モ トビ コジュケイ コチドリ クサシギ  
イソシギ キジバト アオゲラ アカゲラ  
コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ  
セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ  
ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウ  
カラ ホオジロ カシラダカ アオジ カワ  
ラヒワ シメ ニュウナイスズメ スズメ  
ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス  
(40種) ニュウナイスズメとアオゲラを全員  
で観察。シベリアへ帰る直前のコハクチョウ  
が僕たちに挨拶をしてくれた。狩猟期間が終  
ったことが、彼等にも分るようだ。静かにな  
った水面に、彼等が翼を休めている姿を見ら  
ると、来年はもっと住みやすい環境を用意して  
あげたいと思うのだが。

### 3月11日(日) 荒川村 日野溪谷

人 29人 天気 晴 鳥 トビ ハイタカ  
キジバト コゲラ キセキレイ セグロセキ  
レイ ヒヨドリ カワガラス ミソサザイ  
カヤクグリ ルリビタキ ジョウビタキ ツ  
グミ ウグイス キクイタダキ エナガ ヤ  
マガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ  
カシラダカ アオジ カワラヒワ ベニマシ  
コ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハ  
シブトガラス (28種) 清流にヤマメが泳ぎ、  
ミソサザイのさえざりが響く。カワガラスが  
ビッピッと飛ぶと、見られてよるこぶ人、見  
そこなってくやしがる人。タカが飛んでいる、  
オオタカだ、いや、ハイタカだと楽しい議論。  
秩父の春はひと味違います。



### 新評議員と鳥獣保護員

松井昭吾副支部長が新たに評議員に就任しました。今後は松井評議員が、全国の代表者が集まる本部の評議員会で、支部を代表します。活躍が期待されます。

福井恒人幹事が県の鳥獣保護員になりました。カスミ網の取り締まり、保護思想の普及などに力を尽くしたいと、意欲にあふれています。カスミ網などに関する情報がありましたら、支部事務局までお寄せください。

### 行事案内欄に間に合わなかった行事

—バードウィーク写真展・さいたまの野鳥—

1989バードフォトコンテスト入選作を展示します。熊谷での展示を見に行けなかった方にチャンスです。どうぞおかけください。

●5月11日(金)～21日(月) 午前9時～午後6時(15、16日休館、21日は5時まで)

●大宮駅西口 ソニックシティビル27階  
セキスイハウスハウジングギャラリー  
SHIC27 (入場無料)

—ミニ勉強会・リゾート法とゴルフ場—

自然保護を考えるうえで避けて通れないのが、リゾート法とゴルフ場の問題です。土曜日の午後、意見交換をしてみませんか。

●5月19日(土) 午後2時～5時ごろ

●場所：支部事務局 ●講師(予定)：高松健比古(栃木県支部副支部長)

### 会員の本

支部会員の写真家・平野伸明さん(上福岡市)の待望の写真集が出版されました。

『チョウゲンボウ・優しき猛禽』 平凡社発行 定価4,950円(消費税込み) 支部事業部でも取り扱います。チョウゲンボウが飛翔し、羽ばたき、求愛し、巣立っています。

### 新商品の発売タヨ

支部オリジナルの陶製マグネットメモホルダー。小鳥、魚、葉っぱなど、デザインは数種類。かわいいですヨ。200円～500円。

三室や大麻生の探鳥会でご覧ください。

しらこぼとワッペンやネームプレートも、今ならまだ在庫があります。

### 5月の土曜日当番(午後2時～6時)

5月5日 小淵健二 手塚正義

5月12日 海老原美夫 山部直喜(編集会議)

5月19日 草間和子 石川敏男

5月26日 袋づめの会(1時から)

### 会員数は

4月3日現在 1,273人です。

### 活動報告

2月24日～25日 関東ブロック会議(茨城支部担当)に出席(松井、中島、榎本)。

3月3日 研究部会議。

3月12日と29日 事業部事務処理(草間)。

3月18日 普及部会議、事業部会議、役員会議(司会：諏訪、新評議員・行事など)。

3月31日 浦和市内の民間学童保育所で、約20名の学童に野鳥の話(海老原)。



4月14日から、編集会議が始まりました。会議といっても、固苦しい奮闘気はまったくナシ。皆さんのもとへ、どんな『しらこぼと』を飛ばそうか、そんな相談をワイワイがやがや、やっているわけです。今回のメンバーは、頼れる編集長・山部氏、クールな魅力の森本氏、アフター会議のお楽しみ目当てに湘南くんだりからフラフラ出てきた不良主婦M他数名、さて、会議の成果の今月号はいかがでしたか？ (小林みどり)

『しらこぼと』1990年5月号(第72号) 定価 100円(会員の購読料は会費に含まれます)

発行人 鈴木忠雄 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL・FAX 048(832)4062

〒336 埼玉県浦和市岸町4丁目26番8号ブルムローズ岸町107号 郵便振替東京9-121130

印刷 望月印刷株式会社

(本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします)